

二〇〇九年度 一般入学試験 (C日程)

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認してください。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んでうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(60分 100点) (解答番号

1

50)

第一問 次の文章は、昭和初期を時代背景とする、芝木好子の「隅田川」の一節で、恭子が伯父の高津の家を訪れた場面である。恭子の父の菊良は呉服店を営んでいたが、脳溢血で倒れたために店の経営も傾きかけている。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

ある日の放カ後、恭子は渋谷松濤にある高津の本家へ回った。ひっそりした住宅地のなかにある石の門の家であった。彼女がふいに尋ねていったので、伯母は怪訝な警戒する表情をみせた。

「お父さんの加ゲンはいくらかよくて」

「それが相変わらずなの」

「あの病気はながいのよ」

伯母はいい、それから恭子の家のことを根掘り葉掘りたずねはじめた。店はどうなっているか、医者にごれほどシヤ礼をしているか、どの親戚がいつ見舞いにきて、どんな見舞い品をよこしたかなどであった。この質問から逃れるために、

「誠兄さんは？」

と恭子はわざとたずねた。

「誠也は相変わらず本郷の下宿にいますよ。ほんとに変わり者で、うちの勉強部屋より汚い下宿を転々としていますよ」

「そう」

恭子は聞き流した。伯母の愚痴を聞きはじめたらこれも長にきまっている。この日めずらしく伯父は風邪気味で家に籠もっていた。痩せた伯父は床の上で咳をしながら、かまわず煙草を吸っていた。鼻下に髭を蓄え、滅多に笑わない気難しい顔で、末

弟の菊良とは少しも似なかった。

「お前の父親は、相変わらず寝ていて我儘をいつてるか」

恭子は黙った。

「今日はなんできた、金の何か」

恭子はとつさに意味が呑みこめなかった。

「(7)ならいい」

伯父はいったが、恭子は不意だったので胸を衝かれ、金という連想に顔を赤らめた。いまだかつて恭子は人からこの種類の屈辱をうけたことはなかった。女中がお茶を運んでくると伯母はそれをすすめながら、いつものねっとりした声でいった。

… (1)

「Mデパートが浅草に開店したそうね、どんな？」

「さあ、知りません」

「あなたのお父さんもMデパートへはいつておけばよかったのに。目先が利かなかったのね」… (2)

「あれは冗談ばかりで、肝腎なことでできない男だ。馬鹿もいいところだろう」

父が元気な時分には伯父たちからこんな悪口は聞かなかつたと恭子は思った。彼らは菊良一家から寄りかかられる予感に脅えて、嫌悪の感情を持っている。恭子はこの思いに傷つけられた。誠也のいない家のなかは空虚で、いつになく居辛くつまらなかつた。

「お前の家は女の子ばかりだ。女学校を出たらどうする」

伯父は恭子の将来について口にした。だが彼女は将来どうする目的も志望もなかった。

「すると毎日のらくらしているのか」

「そう」

と恭子はやむなく答えた。

「勉強して女医になれ。金になるし、お前は独立する必要がある。菊が死んでも、財産で学校くらいはゆけるように処分してやる」

伯父は恭子の意志をタメしたが、⁽¹⁰⁾恭子は無言であつた。⁽¹¹⁾

「菊は商人になつたが、高津の一門で商人になつたのはお前のとこだけだ」

その声音には侮蔑があつた。そばで伯母がおもしろそうに、

「恭ちゃんのお父さんは末っ子で甘やかされたせいでしょ、幾度書生にはいってもそこを逃げだしてきたのですって」

「お前の祖先は⁽¹²⁾れつきとした松平藩の武士の家系なのだ。お父さんに聞いたろう」… (③) …

恭子は昔のことなど聞いたこともない。彼女の父は現在にしか興味のない男だ。父が^(注)勅題の和歌を出すとき、士族とつけるだけは知っていた。伯父は不服げに舌打ちした。娘の躰そのものがなっていないばかりか、教えることも教えないのは両親の怠慢であろう。伯父がこんなことを喋りだすのも、彼は今日退屈しているからであつた。普段の彼はむつとりとして、仕事以外の饒舌は損だと心得ていた。

「高津の祖先は島根県石見国の浜田城主、松平右近将監武聡とよぶ殿様の藩士だつた。浜田というのは山陰の松江、出雲から萩につづく日本海に面したながい海岸線のなかにある。六万五千石だが、將軍さまの弟だから親藩なのだ。高津家はお舟方を勤めたが、お前の祖母の出の坂田家は庭奉行だつた。その後、慶応二年に国替えがあつて、岡山鶴田藩に移つたから、伯父さんたちはみなそこで生まれた。剛毅な気風の藩で、坂田の祖父に伯父さんたちは漢語ばかりか剣も習つたが、菊良だけはそのあと東京で生まれた。軽佻浮薄な氣質に染んだのはそのせいだ」

恭子は先祖になんの興味もなかつたし、過去の系譜が自分の血を形づくることにも無関心であつた。彼女が感じるのは石の門の邸に住む伯父への劣⁽¹³⁾トウ意識であつて、それさえなければこれほど伯父の父にむけた誹謗を、聞いていなかったであらう。

彼女は目をあげた。誰たれよりもさきにも、いま飛石を伝つて庭先からはいつてくる人間に気付いた。夕暮れの傾きかけた陽を浴びながら、学生服を着たひよる高い誠也が現れた。夕映えの赤さのために彼は眩まぶしげに皺しわをよせていた。その顰しかめた顔を目にいれたとき、恭子は苦痛とも喜悦ともしれない感情に捉とらわれた。彼と自分がおなじ血筋のなかの人間であつたことも同時に気付いた。その繋つながりのなかに今日まで彼と自分はいたのだ。

「まあ、誠也ですよ」

伯母が声をあげた。この現れかたは幽霊と思わせるに充分だつた。

「なんですね、お玄関からあがるものよ」

形式好きな伯母は非難がましくいつたが、息子が久しぶりに帰つてきたことに呆然ぼうぜんとしたほどだつた。その純粹な悦よろこびかたは、彼が何ヵ月ぶりに現れたことを正直に語るこゝになつた。…(5)

誠也はもともと瘦せぎすだが、また一段と瘦せが目立ち、肩先が尖とがつてみえた。彼は両親に柔和な笑みを浮かべながら、縁先へ歩いてきた。

「恭ちゃん、しばらく」

そういつた。彼の病んでみえる細い身体と、疲れてくろずんでいる顔へ目をやり、そのやさしい微笑にあうと、恭子は殉教者(14)を仰ぐときの息苦しさを感じた。それは重たく苦痛な荷を負っている人間として恭子の胸をしめつけた。彼女はその暗い微笑に捉えられながら、もし彼の荷を軽くできるなら、自分でどんなことでも分かつたらうと思つた。

誠也が現れたことで、⁽¹⁵⁾この家の空気は一変した。伯母は大きな声で女中をよび、珍客を迎えた支度にあれこれと用事をいつけ、自身はそわそわと息子へ質問の雨を降らせた。伯父は煙草に火をつけて一服(16)すると、息子の専門の経済学についてたずね、すぐ煙草をねじり消した。誠也は父と母に扶まれて、そのとりとめない問いに、⁽¹⁷⁾従順な息子らしく答えていた。彼は両親の高ぶつた感情にいくらか、当惑しながら、神経を配つた微笑を絶やさなかつた。伯母はもつぱら下宿の食事のことをたずね、そのせいか顔色が冴さえないが、家へ帰つてはどうかと案じはじめた。恭子は目を遠くの庭へやりながら、これほど睦むつましい親子の間

に、どうにもならない落差のあるのを、見落とすことはできないと思った。

(芝木好子「隅田川」による)

(注1) 誠也——高津夫婦の長男。

(注2) 勅題——天皇が出す詩歌の題。

問1 傍線番号(1)・(4)・(5)・(10)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1
↓
5

(1) 放カ後

- ① 機械をカ働させる
② 責任を転カする
③ 野菜を出カする
④ 当面のカ題と取り組む
⑤ 受験カ目を勉強する

(4) 加ゲン

- ① 資ゲンが枯渴する
② 門ゲンに遅れる
③ ゲン点に立ち返る
④ 暑さで食欲がゲン退する
⑤ ゲン肅な式典

(5) シャ礼

- ① 容シヤしない
② 公の場で陳シヤする
③ 傾シヤ地に家を建てる
④ 条件反シヤの実験をする
⑤ 情報をシヤ断する

(10) タメシ

- ① 雑シを片付ける
② 予定通り実シする
③ シ格を取る
④ 政府のシ問機関
⑤ シ練を乗り越える

- (13) 劣トウ
- ⑤ トウ身大の仏像
 ④ 徒トウを組む
 ③ 文壇へのトウ竜門
 ② トウ論会を開催する
 ① 消トウ時間を守る

問2 傍線番号(2)・(8)と同じ意味・用法のものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

6 . 7

- (2) ひっそりした
- ⑤ 昨夜近所で火事があった
 ④ 勉強したら遊びに行っていた
 ③ 尖った鉛筆で書く
 ② 承知しました
 ① さあ、買った買った

- (8) 寄りかかれる
- ⑤ 返事が待たれてならない
 ④ まんまとだしぬかれた
 ③ 社長に就任された
 ② 好きなように遊ばせればよい
 ① 遠くて徒歩では行かれない

問3 傍線番号(3)「伯母は怪訝な警戒する表情をみせた」とあるが、この時の伯母の様子の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

8

- ① 伯父のいる本家を敬遠してめったに顔をみせない恭子が、突然きたことに驚いている。
- ② 誠也がいないにもかかわらず、恭子が突然やってきた意図がつかめず困っている。
- ③ 恭子の父親の容体が思わしくないことを恭子の表情から察し、戸惑っている。
- ④ 恭子が親に頼まれて経済的な援助を申し込みにきたのではないかと疑っている。
- ⑤ 恭子が突然訪ねてきた理由がわからず難癖をつけて追いつ返そうとしている。

問4 傍線番号(6)「伯父」は本文でどのような人物として描かれているか。その人物像を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

9

- ① 気難しくて、武士の家系であることをいまだに鼻にかけるような、頑迷固陋で孤独な人物。
- ② 気難しくて嫌味なところもあるが、親族の窮状をだまってみ過ごせない、情に厚い人物。
- ③ 武士の出であることにこだわりを持つ一方で、打算的な面もあわせ持つ、二面性のある人物。
- ④ 普段はむつりとして気難しいが、姪の恭子の前では機嫌がよく、饒舌になるような人物。
- ⑤ 武士の家柄を誇り、寡黙と剛毅を重んじる一方で、軽佻浮薄な気質も好む人物。

問5 傍線番号(7)「ならいい」とはどのような意味か。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

10

- ① 金の相談で来たのなら、任せておけ
- ② 金の相談で来たのなら、お断りだ
- ③ 金の相談で来たのかどうか、正直に言ってみろ
- ④ 金の相談で来たのでないなら、何の用だ
- ⑤ 金の相談で来たのでないなら、安心した

問6 本文を内容の展開から二つの部分に分けた場合、前半はどこまでか。本文中の(①)～(⑤)の中から一つ選びマークしなさい。

11

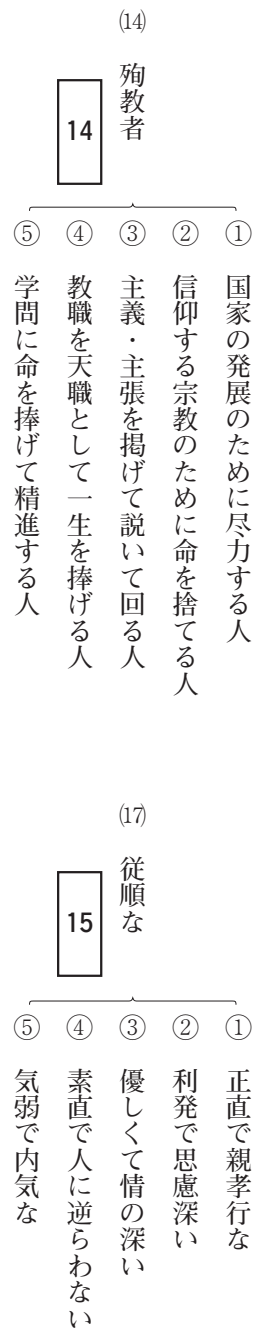
問7 傍線番号(9)・(12)・(14)・(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

12

15

- (9) やむなく
- 12
- ① 力なく
 - ② 何気なく
 - ③ やめて
 - ④ 素直に
 - ⑤ 仕方なく

- (12) れっきとした
- 13
- ① 途切れることなく代々続いた
 - ② とても優雅だが古めかしい
 - ③ 立派な家柄として世間も認める
 - ④ 居並ぶ中でも抜きん出ている
 - ⑤ 歴史に立派な名を残した



問8 傍線番号(11)「恭子は無言であった」とあるが、この時の恭子の心情を説明したものととして、最も適切なものを、次の①〜

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 将来のことは何も決めておらず、伯父の提案に対しても答えようがなくて戸惑う気持ち。
- ② 伯父の言うことはもっともだと思ふものの、伯父の世話にはなりたくないという気持ち。
- ③ 父のことを悪く言い、自分の決めた将来にも口出ししようとする伯父に強く反発する気持ち。
- ④ 何の目的もなく、毎日のらくらくしている自分が女医になれるわけがないと伯父にあきれる気持ち。
- ⑤ 女医になれという伯父の提案が、本心から出たものなのかどうかを見極めようとする気持ち。

問9 傍線番号(15)「この家の空気は一変した」とあるが、どのように変わったのか。その説明として、最も適切なものを、次の

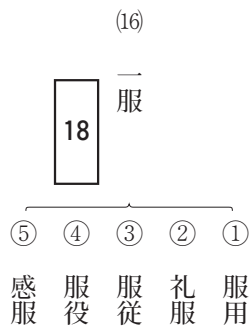
①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

17

- ① 険悪から親密へと変わった
- ② 安閑から喧騒けんそうへと変わった
- ③ 消極から積極へと変わった
- ④ 平穩から緊迫へと変わった
- ⑤ 勤勉から怠惰へと変わった

問10 傍線番号(16)「服」と同じ意味の熟語を、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18



問11 本文における誠也に対する恭子の思いを説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

19

- ① 自分が協力して誠也の負担を少しでも軽くしてやることで、誠也の愛にこたえたいと望んでいる。
- ② いとこ同士の親密感に加えて誠也を異性として意識しており、彼のために役立ちたいと強く願っている。
- ③ 自分と誠也がおなじ血筋の人間であることに改めて思い至り、親族としての義務を果たしたいと望んでいる。
- ④ 一段と痩せて病んでみえる誠也の細い身体を心配し、危険な活動から身を引いてほしいと心底願っている。
- ⑤ 気難しい両親に反抗的な態度を取り、恭子にはやさしく接してくれる誠也を好ましく思っている。

問12

本文の内容や表現の特徴を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

20

- ① 恭子が伯父一家に対して抱いている愛憎の入り交じった複雑な感情が、恭子自身の視点から、ひゆ比喩を多用した心理描写を中心に描かれている。
- ② 家系にこだわる伯父たちと、自らの信念に従おうとする誠也たちとの世代間のずれが、両者を超越した客観的で公平な視点から描かれている。
- ③ 伯父夫婦に傷つけられた恭子の心が、誠也によって次第に癒いやされていく様子が、恭子と誠也の心理的交流を中心に描くことで明らかにされている。
- ④ 恭子と伯父一家とのやりとりが会話文を中心に描かれているが、その要所要所には恭子の目と意識に即した描写が挿入されている。
- ⑤ 表面的には穏やかに見える親子関係の裏に隠された深刻な断絶が、第三者の立場に立って観察する恭子の視点から分析的に描かれている。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(1) 比較文学比較文化を専門とする者にとって、「比較文化」ほど戸惑いを感じさせる言葉はない。なぜなら、イメージ先行の現代社会では、「比較文化」という名のもとで語られていることの中に、⁽²⁾ いかかわしい言説が少なくないからだ。そんな言説に出会うたびに、⁽³⁾ 名状しがたいもどかしさに襲われる。

異文化と多少とも接触する経験を持つ人なら、⁽⁴⁾ 誰しも文化比較の誘惑に陥りやすい。しかし、そうした安易な「文化比較」や「異文化理解」は往々にして偏った認識にもとづいており、しかも誤った推論に導かれやすい。生活習慣や礼儀作法のわずかの違いでも、文化間の本質的な違いとして

5

化され、風土のあるいは歴史的な方向で拡大解釈されることが多い。

注目すべきことに、学問的な訓練を受けた人たちもしばしば同じような誤りを犯す。しかも、学問研究という権威を振りかざしているだけに、問題はかえって厄介である。日本文化論はその一例だが、そのほかにもたとえば、日本文化と欧米文化を一般化し、両者の関係を紋切り型⁽⁶⁾として論じることがよくある。日本が「水性文化」で、欧米が「油性文化」、日本が「おす文化」で、アメリカが「ひく文化」、日本は「察し度の高い文化」で、外国は「察し度の低い文化」等々。いずれもある歴史的な時期における特定の文化の、表層的な事象を単純化し、それを文化の本質として拡大解釈するものである。その場合、歴史における文化間の交差は無視され、文化の「型」という固定化された観念で個別的な事例を捉えようとしている。

そうした経験主義的な「比較文化論」は文化理解にとって百害あっても一利なし。そうである以上、異なる文化のあいだの事象について、皮相な平行比較はなるべく退けるべきである。より重要なことは二つある。一つは歴史文化の時系列の展開に対する注目である。じつさい、文化本質論は歴史における文化変容の検証に堪えられない。もう一つは異文化理解の可能性についての思索である。

この十年来、わたしは日本と中国という二つの文化について、さまざまな角度から思考を重ねてきた。ただ、文化事象について思索をめぐらすことがあっても、文化の「本質」について論じたり、比較したりすることを自戒してきた。そもそも文化には

変わらない「本質」などはない。文化は歴史のなかで独自に形成されたもので、その独自性は長い歳月の経過のなかでもほとんど変わらない、とする言説はただの神話にすぎない。⁽⁸⁾ 異なる文化の本質についての比較は、もともと不可能である。文化の違いについて、結論めいたことをセイ急に求めるのではなく、ダイナミックに変化する文化の現場を正確に把握することこそ大切である。

一方、同時代の複数の文化間の関係について考えるとき、異文化理解の可能性という問題はつねに横たわっている。ほんらい、大いに議論すべき問題なのに、今日の社会では異なる文化を知り、多様な価値観を尊重することは無条件によいことだとされ、「文化の多様性」の擁護は、いまやほとんどイデオロギーと化している。

じつさい、日本の多くの小中高校や大学では「異文化理解」あるいは「国際理解」といった名の授業が設けられている。開講の理由として、いわゆる日本社会の「国際化」がよく挙げられている。日本に来る外国人や海外に出かける人が増え、異文化と出会う機会が以前より多くなった。文化摩擦や文化衝突を避けるためにも、異なる風習や考え方には寛容な態度で臨み、異文化の価値観を尊重する心を持たなければならない。それが「異文化理解」の重要性を唱える理由であろう。

わたしはそうした努力は本当の意味での異文化理解にとつてあまり意味はないと思う。なぜなら、異文化を理解するのはもともと不可能だと考えているからだ。もちろん、異文化を「知る」ことはできる。また、異なる文化の人と友人になり、違う文化のなかで生活することも必ずしも難しいことではない。しかし、それで異文化を理解したとは言えない。良好な個人関係の構築や、異文化の多種多様な風俗習慣を「知る」ことは簡単だ。しかし、個別的な文化事象を知識として認識できても、異文化に対する全面的な理解は不可能である。なぜなら、異文化は内在化することによってはじめて真に理解できるからだ。ただ、異文化と付き合うときに必要なのは、異文化理解ができる、という安易な気持ちではない、ということだけは強調しておきたい。むしろ、本当の意味での異文化理解など不可能だ、という心構えを持つほうが大切なことだと思う。

異文化は理解できないという前提のもとで、必要なのは絶えざる対話と、共通する価値観の模索である。もちろん、だからと言って、いつでも共通の認識に⁽¹²⁾トウ達できるとは限らない。否、ほとんどの場合、その入口にもたどり着けないであろう。

13

、対話を続ける重要性には変わりはない。摩擦や衝突を避けるのではなく、正面から受け止めなければならぬ。

かりに文化と文化のあいだに絶対的な尺度がなく、異なる文化は互いの価値観を尊重すべきだという主張が「文化相対主義」だとすれば、今日に必要なのは、そのような「文化相対主義」の立場と決別することである。じつさい、ヨーロッパの思想界では、早くから「文化相対主義」に対して厳しい批判が行われてきた。しかし、日本では「文化相対主義」が批判されるどころか、正面から議論されることさえほとんどなかった。大学で「異文化理解」「異文化コミュニケーション」という講義が

14

に

「文化相対主義」の主張に対し、文化を越える

15

的な価値観や倫理観があるはずで、どの文化も「異文化尊重」という

理由で、外部からの批判を拒絶すべきではない、という見方がある。かりにそうした立場を「反文化相対主義」と呼ぶならば、わたしは「反文化相対主義」に無条件に賛同するわけでもない。⁽¹⁶⁾紙幅の制限でここで詳しく論じる余裕はすでない。ただ、この問題について考えるとき、クリフォード・ギアツが示した「反・反相対主義」は一つのヒントになるであろう。

異文化理解をめぐる見解の相違も、おもに一つの文化圏ともう一つの文化圏の関係を想定したときのみ顕在化する。今後、予見される文化の関係性はおそらくもつと入り組んだものになるであろう。地球経済の一体化に伴い、異なる文化がいつそう複雑に結合するようになるにちがいない。むしろ、だからと言って、文化の違いがなくなると言うわけではない。また、国民国家がやがて消失すると主張するつもりもない。ただ、領土にもとづく文化の区分法は、多くの場合すでに現実に合わなくなったことは明らかだ。

その意味では、⁽¹⁷⁾グローバリゼーションは決して人々が想像したように、恐るべき災難ではない。それどころか、地球経済の一

体化はむしろ「文化相対主義」と「反文化相対主義」の対立を超越することを可能にする。「文化相対主義」と「反文化相対主義」の最大の争点は、暴力として表徴された異文化を承認すべきかどうかにある。なぜなら、人命⁽¹⁸⁾シユウ奪や身体損傷などの文化習慣は現代人の理性がとうてい受け入れられないからだ。だが、文化距離の縮小ないし消失はそのような論争を無意味にする。その意味では、文化の⁽¹⁹⁾カク壁を破壊するグローバリゼーションはむしろ歓迎すべき事態と言えるかもしれない。じつさい、今日

の世界では一九六〇年代にまだ残っていた暴力的な風習の多くはすでに姿を消した。一方、現代人にとって残忍に見える文化習俗が文化の「本質」でないばかりでなく、部族の内部でも必ずしもつねに善とされたわけではないことも明らかになっている。むろん、民族による風習の違いは永遠になくならないし、「奇習」も地球上から消えないかもしれない。しかし、今後も傳承されていく習俗は必ずしも現代の価値観とまったく相容れないものではない。

その意味では、現代文化について考えるとき、地球経済の構造的な変化を視野に入れるのは不可欠なことである。

(張競『文化のオフサイド／ノーサイド』による)

問1 傍線番号①「比較文学比較文化を専門とする者にとって、『比較文化』ほど戸惑いを感じさせる言葉はない」とあるが、

その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

21

- ① イメージ先行の現代社会で語られる比較文化論は、わずかな違いを本質的な違いと拡大解釈していることが多く、文化の本質を正しく認識しているとは言えないものが多いから。
- ② 異文化と接触した経験を持つ人の多くが、自分の経験を重視するため、歴史のなかで長い歳月をかけて形成された、変わらない文化の本質を見落としてしまうから。
- ③ 世に流布する安易な比較文化論は、歴史における文化間の交差を無視したものが多く、偏った認識にもとづいているので、推論としての妥当性はあるが、学問的に根拠がないから。
- ④ 比較文化論として出会う言説には、型という固定化された観念で個別の事象を捉え、ダイナミックに変化する文化の現場を正確に把握していないものが多いから。
- ⑤ 異文化と接触した人の多くが陥りやすい文化比較は、短期間の経験から導き出された皮相な平行比較にすぎず、学問として一般化するには時間がかかるから。

問2 傍線番号(2)・(3)・(4)・(6)・(9)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

22
 26

(2) いかかわしい

22

- ① 様々な要素がまじりあっている
- ② 表面的で内容が伴わない
- ③ 意図や狙いがはっきりしない
- ④ 信用していいものか疑わしい
- ⑤ どう対応していいかわかりにくい

(3) 名状しがたい

23

- ① 他者から理解されにくい
- ② 対象を特定しにくい
- ③ 理性では抑えにくい
- ④ 存在がとらえにくい
- ⑤ 言葉で言い表しにくい

(4) 往々にして

24

- ① ごくまれに
- ② しばしば
- ③ つねに
- ④ 必然的に
- ⑤ やむをえず

(6) 紋切り型

25

- ① 決まりきった形式
- ② 正面から対決させる形式
- ③ 一刀両断に切り捨てる形式
- ④ わかりやすい所だけを扱う形式
- ⑤ 本質を端的に表現する形式

(9) ダイナミックに

26

- ① 広範囲に
- ② 大ざっぱに
- ③ 時間をかけて
- ④ 躍動的に
- ⑤ 高く

問3 空欄番号

5 · 15

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。ただし、重複は避けること。

27 · 28

① 一般

② 普遍

③ 個別

④ 主観

⑤ 表層

27 5

28 15

問4 空欄番号

7 · 13

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。ただし、重複は避けること。

29 · 30

① ましてや

② むろん

③ そもそも

④ さらに

⑤ それでも

29 7

30 13

問5 傍線番号(8)・(12)・(18)・(19)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

31
 ↓
 34

(8)

セイ急

31

- ① 几帳面なセイ格
- ② 役所に申セイする
- ③ 格差を是セイする
- ④ 世界をセイ覇する
- ⑤ 威セイのいい掛け声

(18)

シュウ奪

33

- ① シュウ得物を届ける
- ② 報シュウを支払う
- ③ 人口がシュウ中する
- ④ 筋肉がシュウ縮する
- ⑤ 敵のシュウ撃を受ける

(12)

トウ達

32

- ① トウ置法で表現する
- ② トウ底できそうにない
- ③ 組織をトウ合する
- ④ 意気トウ合する
- ⑤ トウ選した議員

(19)

カク壁

34

- ① カク実に実行する
- ② カク世の感がある
- ③ しっかりした骨カク
- ④ 物語の輪カクをつかむ
- ⑤ 組織の中カクをになう

問6 傍線番号(10)「異文化理解の可能性という問題」について、筆者はどのように考えているか。その説明として、最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

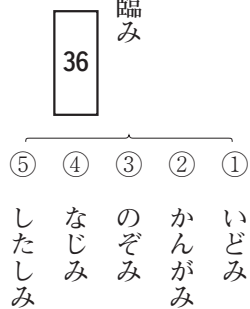
35

- ① 異文化に属する人とのあいだに良好な人間関係を築いていくことは難しいということを踏まえた上で、真剣な対話と共通の価値観を模索することが大切である。
- ② 異文化に寛容な態度で接すれば異文化理解は可能だと信じるような安易な態度を改め、理解も共通の認識も得られないなかでも、対話を続けることを大切にすべきである。
- ③ 異文化を全面的に理解することは不可能だと考え、その前提にたって対話することによって、はじめて異文化が内在化され、共通の認識を作り上げることが可能になる。
- ④ 摩擦や衝突を避けるために寛容であろうとすることは間違っており、むしろ正面からぶつかっていくことで、互いの違いを知り、真に異文化を理解できるようになる。
- ⑤ 異文化に属する人と友人になり、異文化のなかで生活することを通じて異文化の価値観を尊重する心が養われ、文化摩擦や文化衝突を避けることが可能になる。

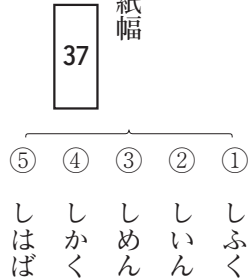
問7 傍線番号(11)・(16)の読みとして、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

36
・
37

(11) 臨み



(16) 紙幅



問8 空欄番号

14

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

38

- ① 無作為
- ② 無造作
- ③ 無差別
- ④ 無理解
- ⑤ 無機質

問9

傍線番号(17)「グローバリゼーションは決して人々が想像したように、恐るべき災難ではない」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① グローバリゼーションによって文化距離が縮小し、異文化が複雑に結合するなかで、現代の価値観にそぐわない暴力的な風習は姿を消していくと考えられるから。
- ② グローバリゼーションによって地球経済が一体化し、先進文明が未開の地に入っていくことによって、現代人の理性にそぐわない奇妙な風習は消えていくと考えられるから。
- ③ グローバリゼーションによって、現代人の理性に反する文化は影をひそめ、同時に全ての文化の違いがなくなるわけではないので、文化相対主義も反文化相対主義もその妥当性を主張できなくなるから。
- ④ グローバリゼーションによって、現代人の理性と合致する新しい文化が形成されることで風習の違いがなくなり、文化の均質化がおこると考えられるから。
- ⑤ グローバリゼーションによって国民国家が消失し、領土にもとづく区分がなくなることによって、異文化に対する偏見が解消されると考えられるから。

問10

本文の論の進め方に関わる説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① 文化をめぐる現代日本の言説や事情と外国のそれを丁寧に比較していくことで、日本のあり方の問題点を浮かび上げさせようとしている。
- ② 比較文化や異文化理解をめぐるさまざまな事情を、時を追ってたどる中で問題を整理し、最後に将来のあるべき文化の形を示そうとしている。
- ③ 比較文化や異文化理解をめぐる具体的な事象や考え方を紹介し、それらを批判的に検討しながら、地球規模にまで思考を広げている。
- ④ 文化に関する考え方をいくつか紹介し、それらをもとにして自説を組み立て、一つのまとまった比較文化論として提示しようとしている。
- ⑤ 異文化理解の授業や海外体験という身近な題材から説き起こし、グローバル化の功罪という抽象的なテーマに話をつなげている。

問11

本文における筆者の主張として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

41

- ① 文化理解のためには、一般化や類型化を警戒し、文化相対主義の立場と決別して、現代の文化のありようや変化に注目しながら、摩擦や衝突をきちんと受け止めていくことが重要である。
- ② 文化は時代とともに移り変わり、このまま国際化がすすめば、いずれ文化の差は消失するので、異文化理解という問題を克服するためには、経済のグローバル化の推進が不可欠である。
- ③ 特定の地域や時代に限って本質的であったことを、全ての地域や時代に広げ、風土や歴史と結びつけて説明しようとする比較文化論は有害なだけで、文化理解に何の利益ももたらさない。
- ④ 文化を理解するにあたって重要なのは、歴史的な文化変容に注目することであり、その文化が長い年月の間に築き上げてきた独自性を、しっかりと見ていく必要がある。
- ⑤ 文化摩擦や文化衝突を避けるためには、異文化と接触する機会を増やし、多様な価値観を身につけて異なる風習や考え方に対する寛容な態度を養う必要がある。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

六条修理大夫顕季卿、刑部丞義光と所領を相論す。白河法皇、なんとなく御成敗なし。匠作心中に怒み奉る間、ある日ただ一人御前に伺候す。仰せられてはいはく、「かの義光の不審のこといかに」と。申してはいはく、「そのことに候ふ。相論の習ひ、いづれの輩も我が道理と思ふことにて候へども、このことに至りては是非顕然に候ふ。未断の条術なきことに候ふなり」と云々。また仰せられてはいはく、「つらつらこのことを案ずるに、汝は件の庄一所なしといへども、全くこと欠くべからず。かれはただ一所懸命の由、これを聞こし召す。道理に任せて裁許せしむれば、子細を弁へずして、武士、もしくは腹黒などや出来せんずらん、と思ひて猶予するなり。ただ件の所を避りてよかしと思ふなり」と云々。ここに匠作零涙に及びて畏まり申して退出の後、義光を召して謁せしめてはいはく、「かの庄のこと、つらつら思ひ給ふるに、それがしはまた庄も少々侍り、国も侍り。貴殿は一所を頼まる、と云々。不便に侍れば、避り奉らんと思ふなり」とて、不日に避文を書き、券契を取り具して、義光に与へ了んぬ。義光喜悅の色あり。座を起ちて侍所に移り居て、たちまちに二字を書きてこれを奉りて退出し了んぬ。その後、殊に入り来ることなし。一兩年の後、匠作鳥羽殿より夜に入りて退出するに、供人なし。わづかに雑色両三人なり。作り道の程より甲冑を帯びたる武士ら五六騎ばかり、車の前後にあり。怖畏の情に堪へずして、雑色を以て尋ね問はしむるところ、武士らはいはく、「夜に入りて御供人なくして御退出す。よりに刑部丞殿より御送りのために以て奉るところなり」と云々。ここに心中に御計らひの止むことなきを思惟す。

(『古事談』による)

(注1) 匠作——修理職の別名。ここでは顕季を指す。

(注2) 腹黒——悪事。

(注3) 不日に——まもなく。

(注4) 避文——土地を譲渡することを記した文書。

(注5) 券契——ここでは土地の権利書のこと。

(注6) 二字——顕季の家来となった印として実名を書いて提出する名札。

(注7) 鳥羽殿——白河法皇の離宮。

(注8) 作り道——ここは鳥羽作り道のこと。平安京の南端にある羅生門から真南に伸びて、鳥羽殿付近を通っていた。

問1 傍線番号①「怨み」とあるが、何を怨んでいるのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 義光との領地争いで、法皇が喧嘩^{けんか}両成敗にしたこと
- ② 義光との領地争いで、法皇が結論を出さなかったこと
- ③ 義光との領地争いで、法皇が義光の肩を持ったこと
- ④ 義光との領地争いで、義光が無理難題を言っ来て来たこと
- ⑤ 義光との領地争いで、義光が顕季の領地に侵入してきたこと

問2 傍線番号(2)「候ふ」・(8)「召し」・(11)「奉ら」の敬語の説明の組み合わせとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

43

- | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| ① | (2) | 尊敬語 | (8) | 尊敬語 | (11) | 謙讓語 |
| ② | (2) | 謙讓語 | (8) | 謙讓語 | (11) | 丁寧語 |
| ③ | (2) | 謙讓語 | (8) | 尊敬語 | (11) | 尊敬語 |
| ④ | (2) | 丁寧語 | (8) | 謙讓語 | (11) | 尊敬語 |
| ⑤ | (2) | 丁寧語 | (8) | 尊敬語 | (11) | 謙讓語 |

問3 傍線番号(3)「術なき」の本文における意味として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

- ① どうにもしようがない
- ② 恐れ多い
- ③ みつともない
- ④ はつきりした理由がない
- ⑤ もの足りない

問4 傍線番号(4)「任せ」・(6)「猶予する」・(9)「給ふる」・(12)「堪へ」・(13)「尋ね」の中で、活用の種類が他と異なるものはどれ

か。次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① (4) 任せ ② (6) 猶予する ③ (9) 給ふる ④ (12) 堪へ ⑤ (13) 尋ね

問5 傍線番号(5)「出来せんずらん」を品詞に分けたものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしな

さい。

46

- ① 出来せ／ん／ず／ら／ん
② 出来せ／ん／ずら／ん
③ 出来せ／んず／ら／ん
④ 出来せ／んず／らん
⑤ 出来せ／んずら／ん

問6 傍線番号(7)「なり」・(10)「る」の助動詞の文法的意味の組み合わせとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

47

- | | | | | |
|---|-----|----|------|----|
| ① | (7) | 断定 | (10) | 存続 |
| ② | (7) | 断定 | (10) | 受身 |
| ③ | (7) | 断定 | (10) | 尊敬 |
| ④ | (7) | 伝聞 | (10) | 完了 |
| ⑤ | (7) | 伝聞 | (10) | 尊敬 |

問7 傍線番号(14)「御計らひ」の具体的な内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

48

- ① 領地を義光に与えよと忠告した法皇の処置
- ② 争いを中止し義光と和解せよと勧めた法皇の提案
- ③ 顕季の家来になるように義光に命じた法皇の裁定
- ④ 顕季の警護を武士たちに命じた法皇の配慮
- ⑤ 受けた恩に恩をもって報いた義光の義理堅い態度

問8 傍線番号⁽¹⁵⁾「止むことなき」の本文における意味として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

49

- ① 永遠に続く ② 不思議である ③ 無難である ④ 尊い ⑤ 思いがけない

問9 『古事談』と同じ鎌倉時代の説話集として、適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

50

- ① 増鏡 ② 発心集 ③ 方丈記 ④ 今昔物語集 ⑤ 徒然草